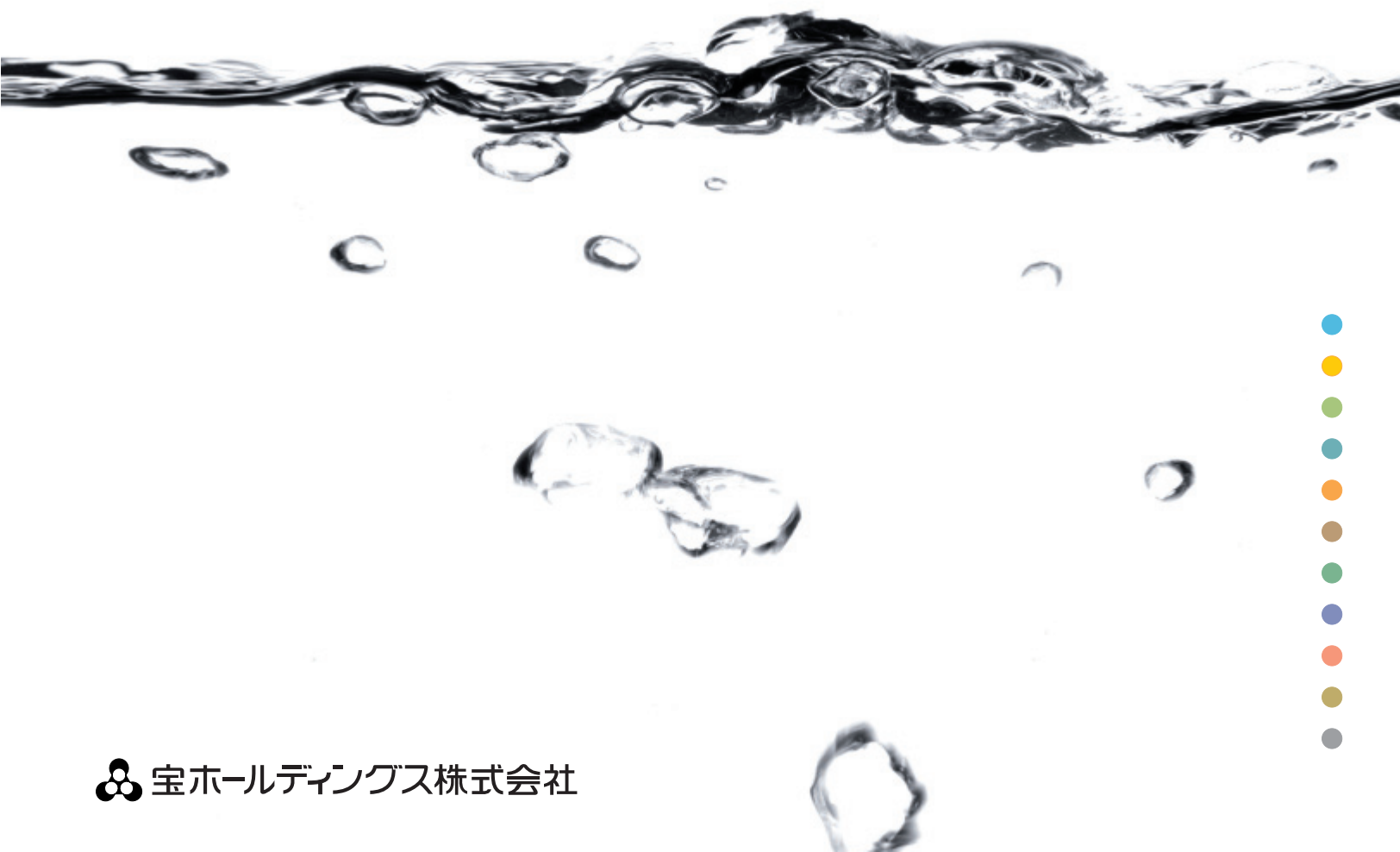


# TaKaRa

## **Solid** Foundation, **Strong** Growth Potential

アニュアルレポート 2008



わたしたちTaKaRaグループは、日本伝統の酒造りの発酵技術と最先端のバイオ技術の革新を通じて、食生活や生活文化、ライフサイエンスにおける新たな可能性を探求し、新たな価値を創出し続けることによって、社会に貢献しています。

持株会社である宝ホールディングスは、酒類事業や調味料事業を展開する宝酒造グループ、バイオ事業を展開するタカラバイオグループに加え、健康食品事業の成長を加速させる役割を担う宝ヘルスケアを傘下におさめ、グループ全社の経営を調整・統括し最大限の事業成果を追求しています。

現在、TaKaRaグループは2000年に策定した10年間にわたる長期経営構想「TaKaRa Evolution-100 (「TE-100」)」のもと、「業績の進化」「事業の進化」「経営の進化」「風土・人財の進化」「社会・環境行動の進化」という5つの進化の実践に取り組んでいます。酒類・調味料事業を安定した収益基盤と位置づけ、バイオ事業と健康食品事業によりさらなる成長の可能性を広げ、真の企業価値(value)の向上に努めていきます。



#### 将来見通しに関する注意事項

この報告書に記載されている、当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、様々な要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて  
人間の健康的な暮らしと  
生き生きとした社会づくりに貢献します。



## Contents

|                                              |    |   |
|----------------------------------------------|----|---|
| 企業理念                                         | 01 | ● |
| 宝ホールディングスの歴史                                 | 02 | ● |
| 営業概況                                         | 04 | ● |
| 特集 Solid Foundation, Strong Growth Potential | 06 | ● |
| 社長インタビュー                                     | 10 | ● |
| 事業概要                                         | 15 | ● |
| コーポレート・ガバナンス                                 | 20 | ● |
| 役員                                           | 22 | ● |
| 社会・環境活動                                      | 23 | ● |
| 6年間の主要連結財務データ/ファクトシート                        | 24 | ● |
| 主要子会社データ/会社概要                                | 26 | ● |





## 営業概況

売上高 2008年3月期 **191,878** 百万円

当社の事業は、酒類・調味料、バイオ、物流、その他の4つのセグメントから構成されています。このうち、酒類・調味料セグメントが売上高の81.7%を占めており、TaKaRaグループの事業基盤を支えています。バイオ、物流、その他各セグメントを合わせ、売上高の18.3%となっていますが、バイオ事業や健康食品事業など、将来のTaKaRaグループの成長ドライバーであり、重要な役割を担っています。

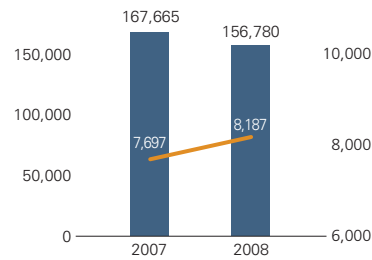
### 酒類・調味料※1

## Alcoholic beverages and seasonings

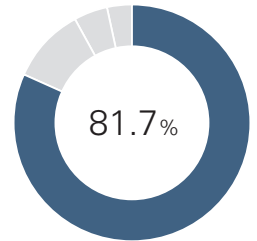
#### 主要製品

- 焼酎
- 清酒
- ソフトアルコール飲料
- 本みりん
- 食品調味料
- 原料用アルコール 等

#### 売上高/営業利益 (右目盛) (百万円)



#### 売上構成比



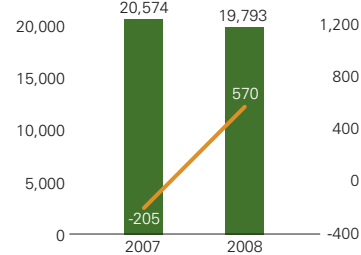
### バイオ

## Biomedical

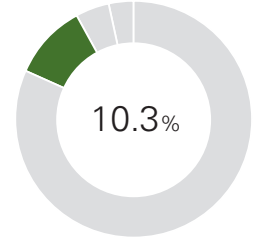
#### 主要製品

- 研究用試薬
- 理化学機器
- 研究受託サービス
- 遺伝子導入関連製品
- キノコ
- バイオ医薬品 等

#### 売上高/営業利益 (右目盛) (百万円)



#### 売上構成比



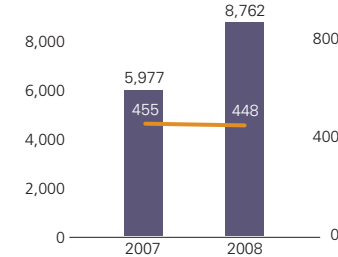
### 物流

## Transportation

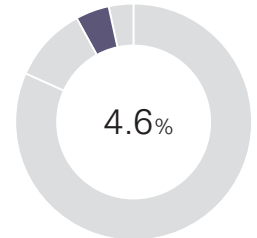
#### 主要製品

- 貨物運送業
- 倉庫業
- 流通加工業

#### 売上高/営業利益 (右目盛) (百万円)



#### 売上構成比



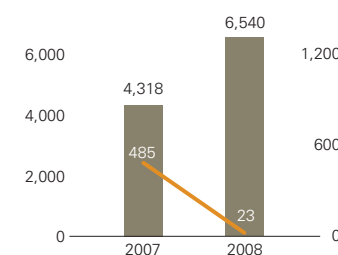
### その他

## Other

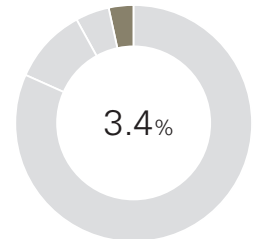
#### 主要製品

- ラベル
- ポスター
- 段ボールケース
- 販促用品
- 不動産賃貸
- 健康食品 等

#### 売上高/営業利益 (右目盛) (百万円)



#### 売上構成比



※1 飲料事業の撤退に伴い、「酒類・食品」セグメントを「酒類・調味料」と名称変更いたしました。



### 概況

当期の当セグメントの売上高は、前期比6.5%減の156,780百万円、売上構成比は81.7%となりました。  
 飲用甲類焼酎の大型容器商品において、納入価格の改定を実施し、一時的な販売数量減に伴う大幅な売上の減少があり、また、2007年3月期(前期)に当セグメントに属していた飲料事業から撤退したことや、「運送」を新たな物流セグメントと定めたため減収となりました。しかし、納入価格の改定が販売促進費の削減につながったことや、撤退した飲料部門が営業赤字を記録していたこと等から、独立した物流セグメントの営業利益を考慮すると、実質的な増益となりました。



### 概況

当期の当セグメントの売上高は、前期比3.8%減の19,793百万円、売上構成比は10.3%となりました。  
 長年培ってきたバイオテクノロジーを活用し、遺伝子工学研究分野、遺伝子医療分野、医食品バイオ分野の3領域に経営資源を集中し事業を推進しています。質量分析装置等の大型機器の売上高減少や、健康志向食品の外部販売を他社に移管する<sup>※2</sup>等により減収となりましたが、販売機能の移管に伴い効率的な費用投下に努めたこと等により、大幅な増益となり、2002年の会社分割以降初の営業黒字を達成しました。



### 概況

当期の当セグメントの売上高は、8,762百万円、売上構成比は4.6%となりました。  
 なお、当セグメントは前期まで「酒類・食品」セグメントに含めておりました「物流事業」を当期より独立セグメントとしたものです<sup>※3</sup>。前期10月より連結の範囲に含めた長崎運送株式会社の売上が通年寄与したことにより、売上高は46.6%増加しました。しかし、損益面では原油価格高騰に伴う軽油価格の高騰や、価格競争激化により営業利益は前期並みとなりました。



### 概況

当期の当セグメントの売上高は、前期比51.5%増の6,540百万円、売上構成比は3.4%となりました。  
 健康食品事業、印刷事業および不動産賃貸事業を中心に展開するなか、宝ヘルスケア株式会社の売上高が通年寄与し始めたことにより増収となりました。



※2 宝ヘルスケア株式会社に移管しました。

※3 前期に連結範囲に加えた長崎運送株式会社が通年寄与することになり、金銭的重要度が高まったためです。

# Solid Foundation

## 確固たる基盤事業

宝酒造は、あくなき品質へのこだわりと、そのこだわりを実現する技術力により、長きにわたり安定的収益基盤としてTaKaRaグループを支え続けています。

### 焼酎復権への熱き思い

宝酒造の命と言っても過言ではない焼酎。戦後、「庶民の酒」として一時的に盛り上がりを見せたものの、粗悪な密造酒等の影響により次第にイメージは劣悪になり、1970年代前半には需要はどん底まで低下していました。このような状況のもと、焼酎のイメージを一新するような高品質の焼酎を開発するため、10年もの試行錯誤を繰り返し、1977年によく市場に送り出した商品が“宝焼酎「純」”なのです。

### 白色革命(ホワイトレボリューション)と焼酎復活への道のり

焼酎の需要が低迷している中でも、宝酒造は焼酎復権を目指し、蒸留技術や貯蔵技術、ブレンド技術の蓄積に努める等地道な取り組みを続けていました。その頃世界では、1974年に米国においてウオッカの消費量がバーボンウイスキーを上回り、欧州では無色透明な酒がブームを引き起こす等、個性豊かなブラウンスピリッツから、何で割ってもバランスを崩すことのない無色透明な酒に嗜好が変わってきました。この動きは「白色革命(ホワイトレボリューション)」と称され、宝酒造は、日本にも必ず白色革命の波が来ると信じ、高品質で全く新しい焼酎がこの波を先導すると開発を進めました。そこで誕生したのが宝焼酎「純」です。原料や蒸留方法を様々に変えた樽貯蔵熟成酒を厳選し、純度の高い甲類焼酎とブレンド、さらに独自の濾過を施して仕上げた焼酎で、自然なうまみとまるみ、ごく軽やかな香りを併せ持ちながら、最高にピュアな味わいを実現しました。ボトルデザインもあいまって従来の焼酎のイメージを刷新。発売以降順調に売上を伸ばし、1980年代には空前のチューハイブームを巻き起こす大ヒット商品となりました。2007年には発売30周年を迎え、累計販売本数も11億本(720ml換算)を超えるロングセラーブランドとなっているのは、宝酒造のあくなき品質へのこだわりの成果です。



2007年には発売30周年を記念し、ラベルをリニューアルしました

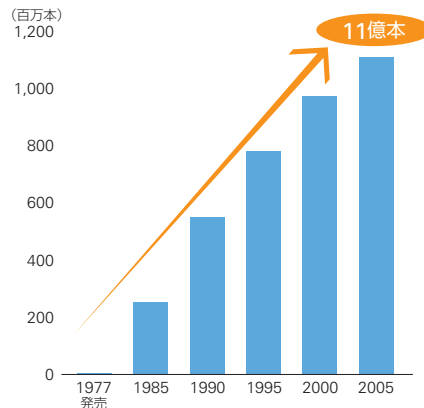


「純」誕生当時の広告



宝焼酎「純」で使用されている11種類の樽貯蔵熟成酒

宝焼酎「純」累計販売本数(720ml換算)





「純」の成功は、焼酎市場に新たなステージを切り拓き、焼酎復権の先導役となりました。それだけでなく、ソフトアルコール飲料といった新たな市場をも創造し、そして、宝酒造の品質へのこだわりは、現在でも脈々と受け継がれています。

### タカラcanチューハイ

宝焼酎「純」の発売を機に、日本にも白色革命が巻き起こり、チューハイは好みのフレーバーを味わえる爽快でライトなお酒として若い世代を中心に高い人気を誇るようになりました。このチューハイブームにいち早く着目した宝酒造は、1984年1月に日本初となる缶入りチューハイ「タカラcanチューハイ」を発売しました。新しいスタイルのソフトアルコール飲料としてたちまち爆発的な人気を呼び、24時間フル稼働の生産でも追いつかないほどの大ヒット商品となりました。時代のニーズを捉えた商品として、その後の酒類市場にソフトアルコール飲料という新たなジャンルを創造するとともに、その高い品質で現在も多くのお客様から絶大な支持を得ています。



タカラcanチューハイ

### 全量芋焼酎「一刻者」<sup>いっこもん</sup>

これからのトレンドを踏まえ、より地域性豊かで手作り感を堪能できるような味を目指して、宝酒造が芋焼酎の開発に着手したのが1997年でした。そこで技術陣が検討したのは、麴原料に芋を使用した“全量”芋原料の焼酎です。一般的な芋焼酎には米麴が使用されており、芋麴の製造は、極めて難しいとされていました。しかし試行錯誤を重ねるなか、宝酒造が長年培ってきた技術力を用いることにより、焼酎造りに最適な芋麴を完成させたのです。その仕上がりは、芋が本来持つ風味だけが残ったため、雑味のない上品で香りの良いお酒になり、また、醗(もろみ)の発酵もよく、適度にまろやかな味わいが出来上がりました。「一刻者」とは、鹿児島の方で「頑固者」という意味です。その名の通り、造りに頑固にこだわった商品は、その香りや味わいが好評を博し、年々人気が高まってきており、国内酒類事業の収益力強化のための戦略商品として位置づけられています。今後も、プロモーション活動の強化や新規料飲店の積極的な開拓等各種施策を通し、品質の優位性をお客様に訴求してブランド価値を高めていきます。



全量芋焼酎「一刻者」

# Strong Growth Potential

## 可能性を広げる成長事業

### ■ タカラバイオ

タカラバイオは、がんやエイズ等の難病克服に向けた遺伝子医療技術の完成を目指すことで、将来のTaKaRaグループの飛躍的な成長の可能性を広げています。

### 遺伝子医療分野の基本戦略

遺伝子工学で培われたテクノロジーの応用分野として、遺伝子医療(遺伝子治療<sup>※1</sup>、細胞医療<sup>※2</sup>)に必須な中核技術を開発し、その商業化を目指すことを基本戦略としています。

その中核技術は、「レトロネクチン法」と「レトロネクチン拡大培養法」(コラム参照)で、全世界にライセンスアウトを進め、また、ライセンスアウトにとどまらず、自社グループにおいて、がんやエイズを対象にした遺伝子医療の研究開発および臨床開発を進めています。

※1 遺伝子治療とは、生まれつき欠いている遺伝子や、病気を治すために役立つ遺伝子、あるいはこれらの遺伝子を組み込んだ細胞を、患者の体に投与することで疾患を治療する方法です。遺伝子治療は、体外遺伝子治療と体内遺伝子治療に大別されます。体外遺伝子治療とは、ヒトの細胞を取り出して、体外でその細胞に目的の遺伝子を導入し、その細胞を患者に戻す方法です。一方の体内遺伝子治療は、生体に治療用遺伝子を直接投与する方法です。

※2 細胞医療とは、生きた細胞を患者に投与することにより病気を治療することです。輸血や骨髄移植も広義には細胞医療ですが、狭義の細胞医療では操作に必要な細胞の分離、保存、培養による増殖・加工といった工程が含まれます。



レトロネクチン<sup>®</sup>を用いた実験



レトロネクチン<sup>®</sup>



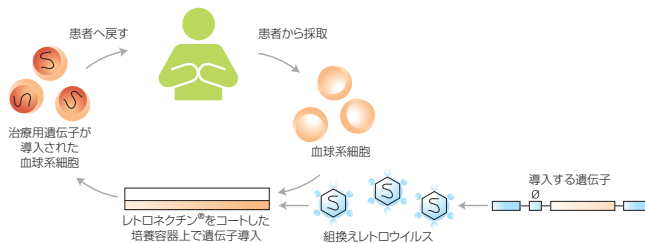
研究風景

### 遺伝子医療分野におけるタカラバイオの中核技術

#### 1. レトロネクチン法

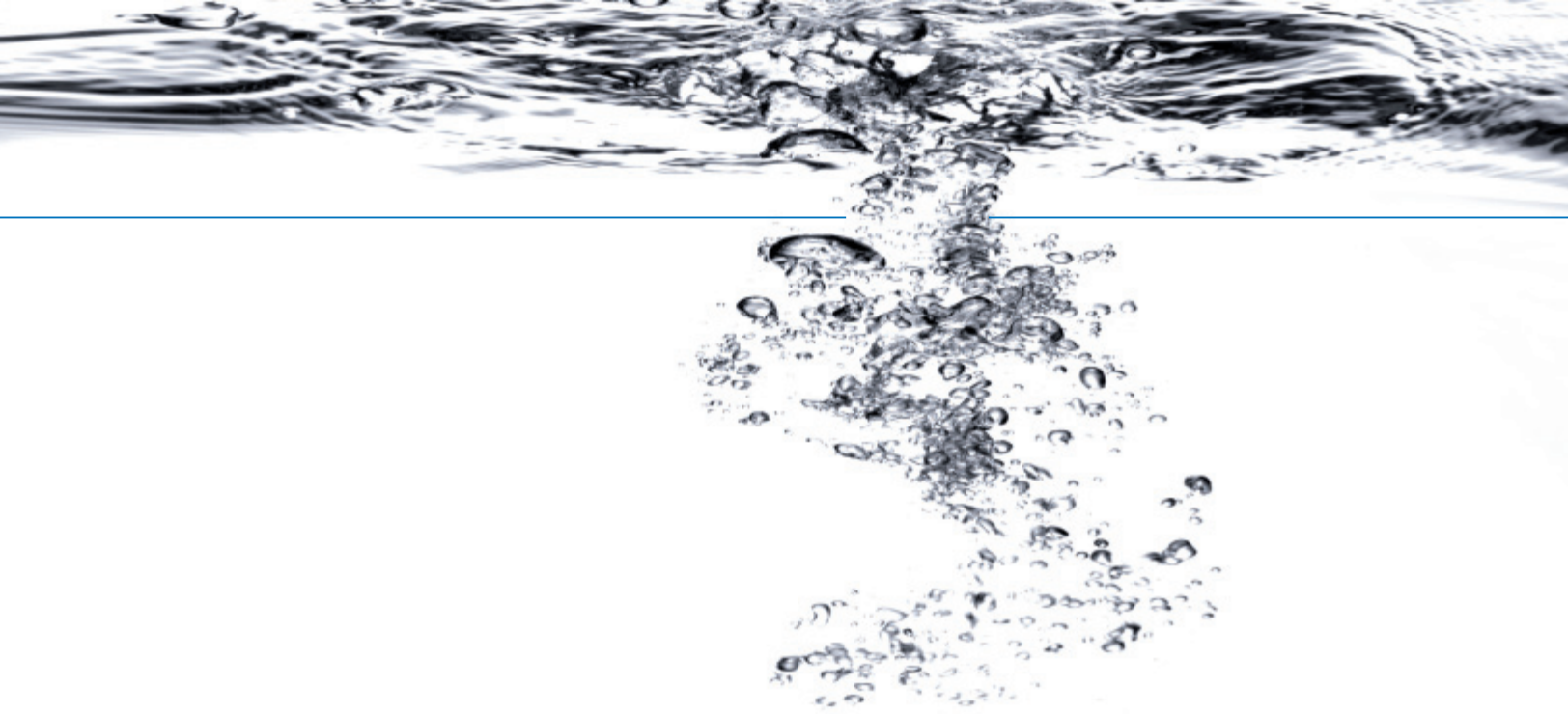
レトロネクチン<sup>®</sup>とは、ヒトフィブロネクチンを改良した組換えタンパク質です。標的細胞とウイルスベクターの両者に対して特異的相互作用を持つことにより、レトロネクチン<sup>®</sup>上で、レトロウイルスと標的細胞が密接に接触し、遺伝子導入効率が上がると考えられています。レトロウイルスベクターを用いた高効率遺伝子導入法であるレトロネクチン法は、様々な医療機関や民間企業、42施設での遺伝子治療臨床研究で採用されており、体外遺伝子治療のスタンダードになりつつあります。

#### レトロネクチン<sup>®</sup>を用いる遺伝子治療プロトコル



#### 2. レトロネクチン<sup>®</sup>を用いたリンパ球の拡大培養法

リンパ球の拡大培養は、遺伝子治療や細胞医療に用いられており、レトロネクチン拡大培養法とは、ヒトリンパ球の拡大培養の際に、インターロイキン2および抗CD3モノクローナル抗体に加え、レトロネクチン<sup>®</sup>を併用するものです。この結果、生体内での生存能力が高く、抗原認識能も高いナイーブT細胞を多く含む細胞集団が得られます。



## タカラバイオグループが実施している臨床開発プロジェクト

### 遺伝子治療

|                          | 対象疾患        | 地域       | 提携先                                   |
|--------------------------|-------------|----------|---------------------------------------|
| HSV-TK遺伝子治療(ドナーリンパ球輸注療法) | 再発白血病       | 日本       | 国立がんセンター中央病院                          |
| HSV-TK遺伝子治療(ハプロadd-back) | 高リスク造血器悪性腫瘍 | 日本       | 国立がんセンター中央病院                          |
| TCR遺伝子治療                 | 食道がん        | 日本       | 三重大学医学部                               |
| MazF遺伝子治療                | エイズ         | 中国<br>日本 | 中国疾病予防管理センター<br>医薬基盤研究所 霊長類医学科学研究センター |

### 細胞医療

|          | 対象疾患                | 地域 | 提携先           |
|----------|---------------------|----|---------------|
| がん細胞免疫療法 | 腎がん                 | 中国 | 中国医学科学院がん病院   |
| がん細胞免疫療法 | 難治性がん               | 中国 | 天津医科大学天津市腫瘍病院 |
| がん免疫再建療法 | 卵巣がん、頭頸部がん、食道がん、骨髄腫 | 日本 | 三重大学医学部       |
| がん細胞免疫療法 | 検討中                 | 韓国 | Green Cross社  |

## ■宝ヘルスケア

宝ヘルスケアではタカラバイオの技術を利用した健康志向食品の製品開発や販売を強化し、健康食品事業を将来の成長事業へと導きます。

タカラバイオが開発を進めてきた、昆布「フコイダン」、寒天「オリゴ糖」、明日葉「カルコン」、キノコ「テルペン」、ボタンボウフウ、トゲドコロ等のTaKaRaグループの持つ様々な独自素材を、安心かつ安全な健康志向食品として市場に届けることで、お客様の健康で生き生きとした生活を応援します。まだ事業規模は小さいものの、通信販売を最も重要な販路として注力し、より幅広い顧客との接点拡大に努めて、収益の拡大を目指しています。





宝ホールディングス株式会社 代表取締役社長  
大宮 久

### Q1.宝ホールディングス連結(以下、TaKaRaグループ)を取り巻く事業環境と現状に対する認識について話してください。

**A** TaKaRaグループの基盤事業である国内酒類事業は、厳しい市場環境のもとでの事業運営を行っています。飲酒人口の減少や、お客様の嗜好の多様化や低価格志向等により、市場は収縮の方向にあり、飛躍的な売上の拡大を期待することが難しい状況が続いております。また、近年の酒類小売免許の規制緩和に端を発した流通市場の再編等もあり、販売競争が激化しており、さらに、原油や穀物価格の高騰の影響で、原材料価格が上昇する等、各メーカーの収益を圧迫しています。一方、バイオ事業の市場環境は、テクノロジーの進展に伴い研究支援市場が安定的な成長を見せ、また細胞生物学の進歩による再生医療の実用化が話題になる等、堅調な拡大が見受けられます。さらに健康志向の高まりによる健康食品事業や、調味料事業、そして、日本食が国際的な広がりを見せるなか、海外での酒類・調味料事業等も、成長の余地が大きい事業と捉えています。

### Q2.2008年3月期(以下、当期)の業績を評価してください。また、当期で終了した「第6次中期経営計画」の成果と今後の課題について話してください。

**A** 当期のTaKaRaグループの業績は、売上高が1,918億78百万円(前期比3.4%減)と減収となりましたが、営業利益は85億6百万円(同11.0%増)となり、2期連続の増益を達成しました。これは、売上高減少に伴う売上総利益の減少を、販売促進費の低減により補った結果です。経常利益は、持分法投資利益が増加したこと等により、91億23百万円(同16.3%増)となり、当期純利益は、2005年に連結子会社となったクロンテック社の係争和解費用等の特別損失の発生がありましたが、投資有価証券売却益等の特別利益を計上し、46億58百万円(同10.7%増)と、共に増益となりました。

事業セグメント別の損益では、酒類・調味料事業の売上高は、原材料価格の高騰に対応し甲類焼酎の大型容器商品等の納入価格を見直したことや、不採算事業であった飲料事業から撤退したこと等により、大幅に減収となりましたが、これらに伴う販売促進費の減少や、継続的なコストダウン活動に努めたこと等が奏功し、営業利益は、セグメントの変更がありましたが、実質2期連続の増益となりました。

バイオ事業の売上高は、遺伝子工学研究分野において、主力製品である研究用試薬の売上高がほぼ前期並みとなりましたが、理化学機器では、質量分析装置等の大型機器の売上高が大きく減少し、また、医食品バイオ分野における健康志向食品の販売機能を連結子会社である宝ヘルスケア社へ移管した影響等により、減収となりました。一方利益面においては、売上構成比の変化による売上総利益率の向上や、将来の成長に向けた研究開発費の増加を上回る販管費の削減等により、タカラバイオグループとして、2002年の会社創立以来初となる営業黒字を、そして2期連続となる経常黒字を達成し、研究開発費用を負担したうえでの継続的な黒字体質への転換にめどをつけました。

さて、当期は第6次中計の最終年度でありました。この3年間の主な成果として、「増益基調への転換」を果たすことができた、ということが挙げられます。

中計初年度の2006年3月期こそ、原材料価格の想定以上の高騰等により、減益となりましたが、以降は営業増益を達成できました。酒類・調味料事業においては、全量芋焼酎「一刻者」や「松竹梅白壁蔵」に代表される「品質訴求商品」を成長させつつ、不断のコスト削減活動の実施や、販売促進費管理の徹底、そして納入価格の見直し等、「利益マネジメントの徹底」を図り、さらに飲料事業から撤退し、グループ内事業の効率化に努めました。バイオ事業においては、クロンテック社を買収し、様々なシナジー効果を追求することで収益力を高め、バイオ医食品分野における販売提携等を進め収益を改善いたしました。2つ目の成果としては、将来の成長ドライバーである遺伝子医療分野の進展が挙げられます。国立がんセンターで実施を予定している、白血病を対象としたHSV-TK遺伝子治療の臨床試験に関し、2007年10月に厚生労働省より、「遺伝子治療用医薬品の品質および安全性の確保に関する指針に適合していることを確認した」との通知を受けました。2009年3月期中に第Ⅰ相臨床試験を開始する予定です。また、レトロネクチンのライセンスアウト先も着実に増加しています。3つ目の成果として、「成長分野の組織化」も実施しました。健康食品事業の加速を期し、宝ヘルスケア社を設立するとともに、食のマーケットにおける成長分野である「中食市場」の開拓をミッションに、宝酒造内に「調味料加工業務用事業本部」を設立する等、成長への布石を打ちました。

一方で、課題も残りました。まず、新規ビジネス領域では、当初の売上高計画が未達に終わりました。酒類・調味料事業の「海外事業」においては、既存事業は大きく拡大したものの、新規事業の計画が実現できず、売上目標に対して大きな未達となりました。また、「加工業務用調味料事業」においては当初の売上高計画を下回り、健康食品事業でも宝ヘルスケア社は設立当初の売上高計画から遅延した進捗となっています。2つ目の課題は、原材料価格の高騰等による、構造的な収益力の低下です。酒類・調味料事業では、第6次中計3年間の累計で約29億円という、当初予測を超えるコスト上昇に見舞われました。また、2003年9月の酒販免許の規制緩和以降続いている流通構造の変化等により、量販店での売上構成比が増えた結果、例えば一升瓶から、利益率の低い紙パックやペットボトルへシフトする等、商品構成の変化による利益率の低下が、未だ続いています。

これらの結果、第6次中計で掲げた「2008年3月期までに連結売上高2,100億円、経常利益100億円以上、3力年累計営業CF300億円」という目標は、遺憾ながら達成することができませんでした。

### Q3.第7次中期経営計画の基本方針、戦略、目標と、初年度である2009年3月期(以下、今期)における取り組みについて聞かせてください。

**A** TaKaRaグループでは、第6次中計での成果と課題や、TaKaRaグループを取り巻く市場環境を鑑み、“原材料価格の高騰を前提とした収益力の確保”と、“成長分野や成長事業の加速”を、主要な課題と位置づけ、第7次中計を作成しました。その基本方針は、「成長投資と株主還元を通じ、中核事業の持続的安定成





長と、成長事業育成の加速を実現し、企業価値の向上を目指す」というものです。この基本方針に沿って、各事業に取り組みます。

宝酒造グループにおいては、「国内酒類事業における収益力の維持・向上」と、「国内外の伸びる市場へのチャレンジ」をテーマに活動していきます。国内酒類事業においては、市場が縮小するなかでも、しっかりとブランドを育成していくことで収益力を高め、また売上高を確保していきます。現在好調に推移している全量芋焼酎「一刻者」や減少傾向からの反転を目指す宝焼酎「純」等、「質を追求する商品群」によるブランドの差別化と、松竹梅「天」やチューハイ「直搾り」等「販売量を確保しつつ体力強化を図る商品群」による利益マネジメントの強化の両面において、ブランドを育成、再構築し、強いブランドを複数もつ、強固な利益基盤の確立を目指します。また、コスト削減活動も継続し、従来のコストダウン、コストカット活動に加え、新設部門である「業務革新推進部」を中心に生産性向上に取り組みます。「伸びる市場へのチャレンジ」においては、海外市場に向けた取り組みを加速させます。清酒と調味料を柱に、アメリカ、欧州、BRICs等の各ターゲット市場に合う商品やサービスをキメ細かく投入します。同時に日本酒文化の海外伝播のために不可欠な「日本食の普及」という切り口から、たとえば日本料理を教える活動や日本酒の専門知識をもつスタッフを育てていく等、「急がば回れ」の展開を行うこと等も必要でしょう。また国内でも、成長分野である「中食」産業向けに、ユーザー視点に立った商品開発と営業活動を徹底させ、加工業務用調味料事業の一層の強化を図ります。さらにこれらの分野に関しては、成長のための投資を積極的に行うことで、成長速度を加速していきます。定量目標としては、第7次中計期間における原材料価格の高騰によるコストアップ分を、今期に関してのみ12億6千万円を織り込んでいますが、これらの戦略を着実に遂行し、最終年度となる2011年3月期までに売上高1,750億円以上、経常利益80億円以上の達成を目指します。初年度となる今期の重点施策としては、「一刻者」ブランドの育成の継続と、宝焼酎「純」のブランド再活性化に努めます。ともに、業務用チャンネルに注力し、料飲店を開拓することで飲用体験を促進し、同時に品質訴求を継続していきます。また、チューハイ「直搾り」のブランドを強化するために、ユニークな品質特性である「ストレート混濁果汁」を訴求し、シェアアップを目指します。

次に、タカラバイオグループですが、これまでの事業戦略の方向性から大きな変更はありません。収益基盤であり、技術基盤であるコアビジネスの「遺伝子工学研究分野」において、さらなる事業拡大と安定化に努めるとともに、機能性食品素材の開発を中心とした健康志向食品やキノコに関し、積極的な事業展開を図ることで「医食品バイオ分野」の収益改善に努めます。また、今期の第Ⅰ相臨床試験の開始を予定しているHSV-TK遺伝子治療を弾みに、「遺伝子医療分野」において、遺伝子治療や細胞医療の商業化を目指し、臨床開発を加速します。定量目標としては、2011年3月期に、売上高224億円、経常利益12億円の達成を目指します。今期は、円高の影響による海外売上の目減りから、売上高ではほぼ当期並みの水準を見込んでおり、また事業進展のために積極的に先行投資を行う関係から減益となりますが、黒字は継続する計画です。

## TaKaRaグループ 第7次中期経営計画

### 《 基本方針 》

成長投資と株主還元を通じ、  
中核事業の持続的安定成長と、成長事業育成の加速を実現し、  
企業価値の向上を目指す

#### 3年間の各事業の位置づけ

##### 酒類・ 調味料事業

持続的に安定した利益を創出し、  
確固たるキャッシュフローを下  
支えする。  
同時に、成長分野に関しては、成  
長事業への道筋を明らかにし、将  
来キャッシュフローを明確にし  
ていく。

##### バイオ事業

遺伝子医療の商業化の加速と、  
それを支える収益基盤の強化を  
行い、将来キャッシュフローの拡  
大を図る。

##### 健康食品 事業

将来、TaKaRaグループの収益の  
柱となるような成長事業として  
確立できるよう、事業基盤の構築  
に注力する。

#### 財務戦略

既存事業における通常の投資に加え、成長のための投資に資金を投下し、そして積極的な株主還元を実施する。

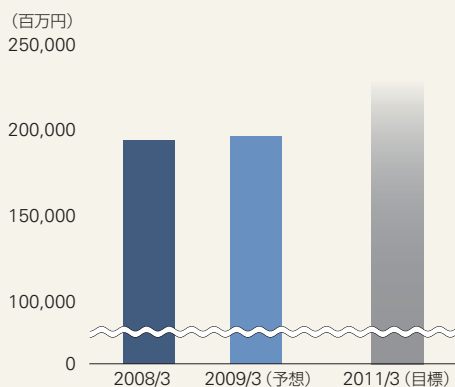
成長のための投資：3カ年累計 **100** 億円以上  
株主還元総額：3カ年累計 **100** 億円以上の実施(これまでの2倍規模)  
株主還元性向：下限値 **50** %の設定\*1

(\*1)以下の式で算出します。

$$\text{株主還元性向} = \frac{\text{株主還元総額(配当総額+自己株式取得額)}}{\text{みなし連結当期純利益}*2} \geq 50\%$$

(\*2)みなし連結当期純利益 = (連結経常利益 - 受取利息・配当金 + 支払利息) × (1 - 法定実効税率)

#### 定量目標 (TaKaRaグループ)



TaKaRaグループ連結で、2011年3月期売上高2,000億円以上、経常利益100億円以上を目指します。また、利益をあげ自己資本をコントロールすることで、自己資本利益率の改善につとめます。

##### ●宝酒造グループ

2011年3月期売上高 **1,750**億円以上 経常利益 **80**億円以上

##### ●タカラバイオグループ

2011年3月期売上高 **224**億円 経常利益 **12**億円

##### ●宝ヘルスケア

タカラバイオの技術を活かした商品における通信販売顧客の獲得を最優先の戦略として活動する。

宝ヘルスケア社では、タカラバイオの技術力を活かした商品による通信販売顧客の獲得を最優先課題として活動します。特に、差別化が図れ利益率が高い、発売以来10余年にわたりお客様よりご愛顧いただいているガゴメ昆布「フコイダン」シリーズの拡販に注力します。引き続き広告宣伝強化を含む先行投資や、成長のための投資を行うことで、事業基盤の構築につとめます。

以上のような方向性での活動を通し、TaKaRaグループでは、第7次中計最終年度である2011年3月期までに、「売上高2,000億円以上、経常利益100億円以上」の達成を目指します。また今期は、売上高で1,945億円、営業利益は12億6千万円のコストアップ分を織り込んだ上で、当期から微増となる86億円を見込んでいます。

#### Q4.最後に、第7次中期経営計画で取り上げられました財務戦略について聞かせてください。

**A** 現状のTaKaRaグループのバランスシートの状況や、各事業の進捗状況等を踏まえ、そしてまた、株主・投資家の皆様からのご意見等を参考に、資金使途の基本的な考え方を表すことにしました。その考え方は、当中計期間を「大きな果実を生むまでの基盤強化の期間」と位置づけ、3ヵ年で創出する営業活動および資産リストラによるキャッシュフロー約340億円を、既存事業における通常投資に加え、成長のための投資や、バイオ事業における成長投資、および積極的な株主還元の実施に、全て使用していく、というものです。

成長のための投資の狙いは、このような資金枠を設けることで、成長戦略を加速させることにあります。酒類・調味料事業、健康食品事業を対象に、成長性の高い事業や収益力強化に向け、100億円以上を投下します。また100億円を超過する場合は、宝ホールディングスの負債による調達で対応します。バイオ事業における成長投資は、従来通りタカラバイオにおいて検討し、自らの営業キャッシュフロー、自己資金、新規調達により賅っていきます。

さらに、株主の皆様への積極的な還元と自己資本のコントロールを強化し、株主の皆様にとっての企業価値を高めるため、配当総額と自己株式取得額の合計で、従来の2倍規模にあたる100億円以上の株主還元を実施していきます。また、事業の成長と長期安定的な還元を両立させることを基本に、業績連動の要素を加えつつ、毎年度の一定の還元を担保するために株主還元性向の下限值を設定する等の「株主還元方針」を制定しました。このような株主還元政策を実施することにより、株主資本利益率(ROE)の着実な改善にも取り組んでいきたいと考えています。

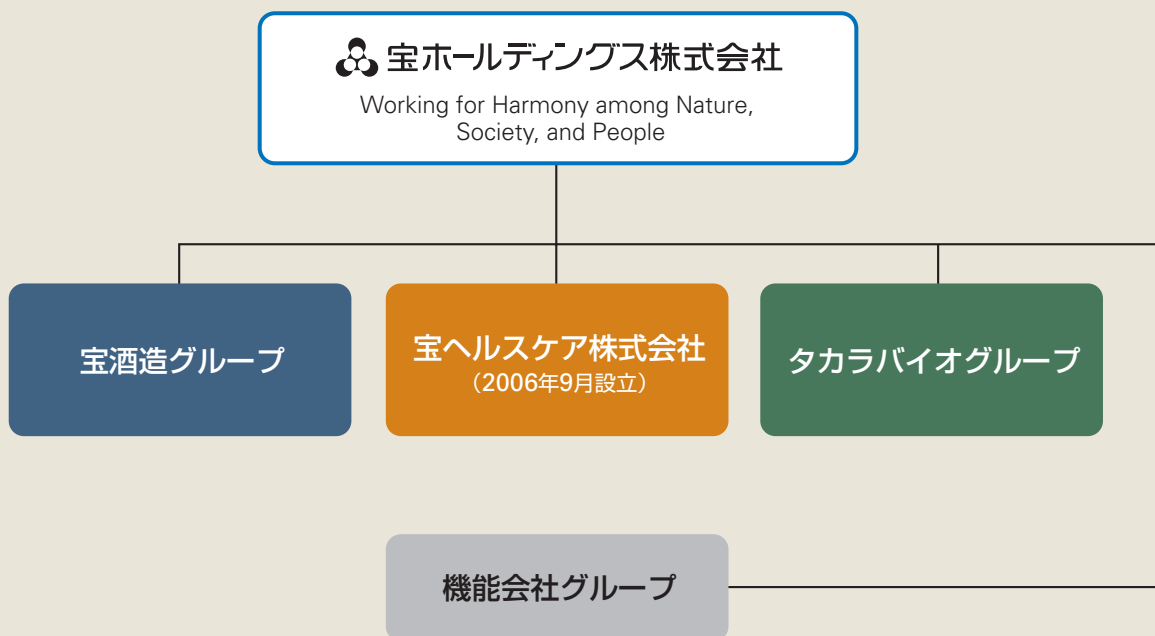


2008年7月  
代表取締役社長

大宮 久

## TaKaRaグループの事業概要

持株会社・宝ホールディングスの傘下には、酒類事業や調味料事業を展開する宝酒造グループ、バイオ事業を展開するタカラバイオグループがあります。これに加えて、2006年9月には健康食品事業の成長を加速させるため、宝ヘルスケアを新たに設立しました。



宝ヘルスケアは、タカラバイオの販売代理店として、タカラバイオから販売ルートや顧客を引き継ぎます。また今後、タカラバイオが新規開発する製品の販売に加えて、アライアンス等を通し独自に健康食品を開発、販売していきます。この再編により、タカラバイオが手掛けてきた健康志向食品事業に、宝酒造のマーケティング力、販売ノウハウを有効に活用することで、TaKaRaグループの健康食品事業の成長を加速させたいと考えています。

今回の事業再編は一方で、タカラバイオと宝酒造の各事業の強化も図ります。タカラバイオでは、健康志向食品事業の販売機能を移管することにより、新規機能性食品素材の研究開発から製品化までのプロセスに特化した効率的な事業展開と、収益力の強化が図れます。宝酒造においては、この事業再編に伴い不採算であった飲料事業から撤退し、同事業に投下してきた経営資源を、国内酒類事業の収益力の向上や、調味料事業、海外事業の拡大に再配分します。

これらの既存事業の強化も含め、新体制により、TaKaRaグループ全体の企業価値向上を目指します。

## 宝酒造グループ

TaKaRaグループのコア事業である酒類・調味料事業の歴史は、1842(天保13)年までさかのぼります。以来160有余年により、時代や消費者が求める価値観や嗜好に対して、常に独創的で確かな技術に裏づけられた安心できる商品を提供することを使命に活動を続けています。

その商品カテゴリーは、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、ワイン、ウイスキー、中国酒、調味料、原料用アルコール等幅広く展開しており、また日本国内のみならず、米国、中国、英国スコットランド等の子会社を通じて、グローバルな事業展開を行っています。



昭和初期の木製看板

### 焼酎

長年培ってきた独自の技術によって、時代が求める焼酎を追求し、市場を創造し続けることで、焼酎市場のさらなる発展に貢献してきました。甲類焼酎では、ボトル焼酎という新たなカテゴリーを築き、発売以来30年以上のロングセラーを続ける“宝焼酎「純」”、伝統と安心の焼酎 No.1ブランド“宝焼酎”等、品質に支えられたブランドによりトップシェアを堅持。本格焼酎においては、芋100%にこだわった“全量芋焼酎「一刻者」”等、様々な原料での造りにこだわった焼酎を発売・育成し、本格焼酎市場においても確固たる地位を築いています。



### 清酒

「松竹梅」は、慶祝・贈答市場におけるトップブランドとして磐石な地位を確立。「よるこびの清酒」として高品質なイメージを守り続け、成長を遂げてきました。また、ソフトパック市場においても「松竹梅「天」」を発売。差別化した酒質と榊莫山氏作の書画を採用したデザインも好評で、多くのお客様に支持されています。兵庫県の灘にある「白壁蔵」では、「本当に旨くてよい酒とは何か」を徹底的に追求し、純米酒や吟醸酒といった特定名称酒を中心に製造しています。今後も造りや原材料にこだわり、お客様に納得いただける高品質で個性的な商品を提案していきます。



## ソフトアルコール飲料

1984年、衝撃的なデビューを飾った“タカラcanチューハイ”。厳選された「焼酎」「果汁」「水」と確かな技術に裏づけられたこだわりの品質は、お客様からの絶大な支持により発売から20年を超えるロングセラー商品です。そのほか、果汁の産地や搾汁方法にこだわった“タカラCANチューハイ「直搾り」”、チューハイの原点とされる「焼酎ハイボール」の味わいを追求した“TAKARA「焼酎ハイボール」”、糖質ゼロの“宝焼酎の烏龍割り”等、お客様の様々なニーズにお応えする高品質な商品を開発、育成していきます。



## 調味料

古くから世界各地で使われてきた「調味料」としてのお酒のチカラに着目し、料理をおいしく、食卓を豊かにする様々な商品をご提案しています。江戸時代に誕生した“タカラ本みりん”は日本料理に欠かせない調味料としてお客様にご支持いただき、本みりんのトップブランドとして日本の食文化とともに進化・発展を続けています。またタカラ料理清酒は、素材の生臭さを消し、料理に深いコクを与える「料理のための清酒」としてご愛用いただいています。そのほか、「京寛」ブランドをはじめとする加工業務用調味料を取り揃え、伸長する中食市場へも「お酒のチカラ」を活かした調味料をご提案しています。



## 海外

米国には清酒「松竹梅」やみりん、梅酒を製造・販売するTakara Sake USA Inc.と、スーパープレミアムバーボン“ブランドン”を扱うAge International, Inc.があり、中国には清酒「松竹梅」やみりん、焼酎を製造・販売、および日本からの輸入製品の販売を行う宝酒造食品有限公司、グループ会社の洋酒の輸入販売を行う上海宝酒造貿易有限公司等があります。欧州では英国にてスコッチウイスキーの製造・販売を行うThe Tomatin Distillery Co., Ltd.、販売拠点として英国と仏国に営業事務所があります。これらのネットワークを相互に活用・補完することで、より効果的な活動を目指すとともに、新たな事業も展開していきます。



Takara Sake USA Inc.のテイスティングルーム

# ■ タカラバイオグループ

TaKaRaグループのバイオ事業の使命は、バイオテクノロジーを利用した遺伝子治療等の革新的なバイオ医療の実現を通じて、人々の健康に貢献することにあります。バイオテクノロジーの研究によって生み出される遺伝子医療は、人々の健康と生命を守るためにあります。その実現のため、タカラバイオグループでは、技術および収益の基盤である「遺伝子工学研究分野」を成長させる一方、「医食品バイオ分野」を第2の安定収益事業に育成し、「遺伝子医療分野」に経営資源を投入することで、遺伝子治療・細胞医療の商業化を目指しています。

## 遺伝子工学研究分野

世界のバイオ研究者を対象に、研究用試薬および理化学機器の製造販売や研究受託サービス等を提供しています。

研究用試薬・理化学機器においては、遺伝子増幅法として幅広く利用されているPCR法に関するライセンスを受け、高い正確性、優れた伸長性および確実性を併せもつPCR酵素や、伸長性に優れた逆転写酵素等、市場のニーズにマッチした製品の開発を進めています。また、2005年9月に米国クロンテック社を買収し、研究用試薬のラインナップが大幅に拡充されました。加えて欧米メーカー製品の導入販売等により、バイオテクノロジー全般に対象領域を広げ、バイオ研究支援産業での確固たる地位を築いていきます。さらに、試薬・機器の販売にとどまらず、研究受託サービス事業を展開しています。ゲノム解析センターであるドラゴンジェノミクスセンターでは、ゲノムの配列解析にとどまらず、次世代シーケンス技術を利用した高速シーケンス解析、DNAチップを用いた遺伝子発現解析等も行っており、総合的な研究受託体制を整えています。

研究用試薬の製造拠点は、中国の宝生物工程(大連)有限公司であり、中国での製造が競争力の原点となっています。さらに、クロンテック社製品の製造を米国から中国に移管し、世界に向けた物流体制を整えることで、コスト競争力の強化や収益力向上を進めていきます。



研究用試薬



リアルタイムPCR装置

## 医食品バイオ分野

食から医という「医食同源」のコンセプトに基づき、日本古来の食材をバイオテクノロジーの目で見つめなおし、その機能を解析し、健康志向食品として消費者の皆様にお届けしています。また、長年培ってきたキノコの大規模栽培技術を活用した事業も展開しています。

健康志向食品事業では、昆布「フコイダン」、寒天「オリゴ糖」、明日葉「カルコン」、キノコ「テルペン」、ボタンボウフウ、トゲドコロ等の生理活性成分に関する研究を進め、これらの機能性食品素材を応用した健康志向食品の開発・製造を行っており、その販売は宝ヘルスケア社が担っています。

キノコ事業においては、スーパーの食品売り場等で、当たり前のように並んでいるブナシメジの大規模栽培に世界で初めて成功し、現在ではハタケシメジとホンシメジの大規模栽培法を確立、JA全農長野や雪国まいたけ社等へのブナシメジの人工栽培技術



人工栽培されたホンシメジ

のライセンス事業や、雪国まいたけ社や沖縄県金武町との提携等により事業の拡大を目指しています。さらに、マツタケゲノムを活用した高付加価値キノコの新規栽培法の開発を進めています。

## 遺伝子医療分野

遺伝子工学で培われたテクノロジーの応用分野として、遺伝子医療(遺伝子治療、細胞医療)に必須な中核技術を開発し、その商業化を目指しています。

遺伝子医療分野におけるタカラバイオの中核技術の一つは、米国インディアナ大学と共同開発したレトロネクチン法であり、タカラバイオは全世界における独占の実施権を保有しています。レトロネクチン法は、体外遺伝子治療の際に使われるもので、これまで難しいとされてきた造血幹細胞等の血球系細胞への高効率遺伝子導入を可能としました。レトロネクチン法は、様々な公的医療機関での遺伝子治療臨床研究で採用されており、民間企業が行っている臨床試験にも利用されています。今後も積極的に全世界にライセンスアウトしていくことで、技術の普及と収益の拡大を目指します。

さらに、タカラバイオは自社プロジェクトとして、保有技術をベースに、国立がんセンター、三重大学等と提携し、白血病や食道がん、エイズを対象とした体外遺伝子治療の臨床開発を進めています。また細胞医療においては、タカラバイオの2つ目の中核技術であるレトロネクチン拡大培養法を用いた、がん細胞免疫療法の臨床開発や、がん細胞免疫療法に関する支援事業を展開しています。



研究風景



レトロネクチン®

## 宝ヘルスケア

宝ヘルスケアは、TaKaRaグループの一員として、グループの持つ独自素材や技術を活かした安心・安全な健康食品を、お客様へ直接お届けするダイレクトマーケティングを通じて、人々の健康で生き生きとした生活を応援しています。

その具体的な役割は、タカラバイオが素材の研究・開発を行い、研究データを蓄積した上で、宝ヘルスケアと共同で製品開発を行います。そして宝ヘルスケアは、タカラバイオから製品の供給を受けて、マーケティング活動や通信販売を中心とする販売活動を行います。この一連の取り組みの中でお互いのシナジーを追求し、健康食品事業の成長を加速させていきます。



TaKaRa健康通販トップページ



TaKaRaフコイダン(エキス)400



明日葉カルコン



クーガイモ

## コーポレート・ガバナンス

当社グループは、「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します」という企業理念のもと、企業としての社会的責任を果たし、当社をとりまく様々なステークホルダーから信頼されることによって、持続的な企業価値向上が可能となると考えております。このような認識のもと、当社グループでは、コーポレート・ガバナンスの充実に重要な経営課題と捉え、その充実に努めています。

### コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

---

当社グループ全体の企業価値向上のために、

- ① グループ各社に権限を委譲し、自立経営のもと事業の展開スピードをあげ、各社において企業価値向上を追求する。
- ② 会議体の定期的な運営等を通じ、各社の事業報告や今後の経営方針・事業戦略について意見交換しあえる風土を維持することで、グループ全体の企業価値向上を追求する。
- ③ 法令遵守の姿勢や倫理性を確保し、コンプライアンス体制を維持することで、グループ全体での企業の社会的責任を果たす。
- ④ オープンかつタイムリー、そして正確な情報開示を継続し、適時開示に対する社内体制を維持することで、経営の透明性を高める。

### 監査役監査、内部監査および会計監査について

---

2008年6月27日現在、当社の取締役会は8名で構成されており（うち社外取締役は1名）、監査役制度を採用しております。監査役は5名、うち3名は社外監査役です。監査役は、取締役会等の重要会議への出席や業務・財産および重要書類の調査を通じて、取締役の職務執行を監査しております。また、監査役は会計監査人と監査計画・監査方針・監査実施状況に関して定期的に意見交換を行うほか、会計監査人の監査体制について説明を受け、会計監査人が行う実地棚卸等に立会する等を通じて会計監査業務に関するモニタリングを行っております。内部監査部門である監査室は、内部監査を実施して必要な対策を講じることにより、職務執行の適正確保に努めております。また監査室は、監査役と監査計画・監査重点項目等について意見交換を行うほか、実施した内部監査の報告を社長に行うとともに監査役にも随時行っております。

### コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与えうる特別な事情

---

#### 当社の上場子会社タカラバイオ株式会社について

2008年3月31日現在、当社は、タカラバイオ株式会社（東証マザーズ、コード番号4974）の議決権の71.0%を所有する親会社であります。当社と同社の関係は以下の通りであります。

##### ① 当社グループにおけるタカラバイオ株式会社の位置づけ

タカラバイオ株式会社は、2002年4月1日に、物的分割の方法により当社の100%子会社として設立いたしました。その後、当社の議決権所有比率は、同社による第三者割当増資、公募増資、新株予約権付社債の発行等により、現在の議決権所有比率となっております。

当社グループは、純粋持株会社である当社、子会社35社および関連会社7社で構成され、その中でタカラバイオ株式会社はバイオテクノロジー専門の事業子会社として位置づけ、当社グループとしてバイオ事業を推進しております。

##### ② 当社のグループ会社管理について

当社は、連結経営管理の観点から「グループ会社管理規程」を定め運用しておりますが、その目的はグループ各社の独自性・自立性を維持しつつ、グループ全体の企業価値の最大化を図ることにあります。タカラバイオ株式会社についても同規程を適用しており、同社の取締役会において決議された事項等の報告を受け



## 役員

2008年6月27日現在



宝ホールディングス株式会社 代表取締役社長  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役社長  
兼 タカラバイオ株式会社 取締役会長

大宮 久



宝ホールディングス株式会社 代表取締役副社長  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長

大宮 正



タカラバイオ株式会社 代表取締役社長  
兼 宝ホールディングス株式会社 取締役

加藤 郁之進

### 宝ホールディングス株式会社

---

|            |       |                                               |
|------------|-------|-----------------------------------------------|
| 取締役        | 後藤 功  | (兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長)                          |
| 取締役        | 矢野 雅晴 | (経営企画担当・CSR担当 兼 宝酒造株式会社 取締役)                  |
| 取締役        | 松崎修一郎 | (経理担当・財務担当・IR担当・財務部長・IR室長 兼 宝酒造株式会社 常務取締役)    |
| 取締役        | 岡根 孝男 | (総務人事担当・環境広報担当・業務革新推進担当・総務人事部長 兼 宝酒造株式会社 取締役) |
| 取締役(社外取締役) | 植田 武彦 | (兼 宝酒造株式会社 取締役)                               |
| 常勤監査役      | 関山 秀人 |                                               |
| 常勤監査役      | 釜田 富雄 |                                               |
| 監査役        | 友村 秀夫 |                                               |
| 監査役        | 太田 芳枝 |                                               |
| 監査役        | 香川 孝三 |                                               |

## みなさまに「いきいき」をお届けする企業であり続けるために 社会や地球にやさしい「緑字企業」へ

TaKaRaグループは、水や農作物等の自然の恵みを受けて事業活動を行っています。豊かな自然環境なくしては事業が成り立たないことから、古くから自然環境に配慮する企業精神が受け継がれ、自然保護活動や環境負荷削減活動に積極的に取り組んでいます。

### お客様の「いきいき」のために

宝酒造では、ISO9001品質マネジメントシステムの認証を全工場を取得しており、品質・安全性・適法性の保証が得られる原材料のみを使用する等、安心できる商品をお客様にお届けできるように、商品企画から設計、調達、製造、出荷にいたる全工程で品質と安全性を追求しています。

1995年からは誤認飲酒防止のため、国内で初めてタカラcanチューハイシリーズの缶ぶたに点字で「おさけ」の表示を入れ、2002年には、やはり国内で初めて酒類紙パック商品のキャップに、同様の表示を入れました。

また、適正飲酒の推進は酒類を製造販売する企業の重要な責任と考え、この問題にいち早く取り組んできました。1985年の「Say Noキャンペーン」では「いい日、いい酒、いいマナー」を提唱し、様々な形でメッセージを発信しました。現在では親子で学ぶ適正飲酒のプログラムを実施する等、お客様の健康を考えた様々な適正飲酒の推進活動を積極的に行っています。



缶ぶたに点字を表示



キャップに点字を表示

### 社会の「いきいき」のために

宝ホールディングスは、公益信託「TaKaRaハーモニストファンド」を1985年に設立し、以降毎年、日本の森林や水辺の自然環境を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究等を行う市民の方々を資金面から援助しています。

2004年4月からは、宝酒造において「TaKaRaお米とお酒の学校」(2008年より「TaKaRa田んぼの学校」にリニューアル)を開催し、お米作りや田んぼ周辺の自然観察を通して、自然の恵みと命のつながりを学ぶ機会を設けています。また、国内でのボランティア活動やNPO法人との協働での取り組みに積極的に参加する一方、米国サンフランシスコに拠点を構える米国宝酒造(Takara Sake USA Inc.)においても、現地の自然環境団体の活動に幅広く参加、貢献しています。



TaKaRa田んぼの学校



「箱根ガーデン」チャリティイベントでの「松竹梅」の鏡開き



TaKaRaハーモニストファンド

### 地球の「いきいき」のために

宝酒造では、事業活動は根本的に地球環境に負荷を与える行為であるということを受け止め、地球環境への負荷軽減や自然保護活動等の社会貢献活動を、企業としての責務と考えています。そして、これらの活動成果を「緑字決算」という形で、1998年以来、社会に公表し続けています。「緑字決算」は、様々な環境負荷や環境配慮、社会活動の中から重要な項目を選定し、その改善度を総合的な収支決算として「ECO(エコ)」という指標で分かりやすく表しています。

さらに、中身のみを販売する「はかり売り」の実施や、容器を再利用できるリターナブルびんの採用、分別作業が容易なエコペットの開発等、お客様と協力して容器の4R(リフューズ：発生回避、リデュース：減量化、リユース：再使用、リサイクル：再資源化)の推進にも取り組んでいます。

※詳細は宝酒造のホームページでご覧いただけます。[http://www.takarashuzo.co.jp/social\\_action/](http://www.takarashuzo.co.jp/social_action/)



緑字企業報告書(2007)



はずせるキャップ



焼酎のはかり売り

## 6年間の主要連結財務データ

3月31日終了事業年度

| 期間項目                      | 単位：百万円  |         |         |         |         |         | 単位：千米ドル   |
|---------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
|                           | 2008    | 2007    | 2006    | 2005    | 2004    | 2003    | 2008      |
| 外部顧客に対する売上高               | 191,878 | 198,535 | 196,119 | 195,359 | 196,897 | 187,394 | 1,918,780 |
| 酒類・調味料セグメント               | 156,780 | 167,665 | —       | —       | —       | —       | 1,567,800 |
| バイオセグメント                  | 19,793  | 20,574  | —       | —       | —       | —       | 197,930   |
| 物流セグメント                   | 8,762   | 5,977   | —       | —       | —       | —       | 87,620    |
| その他のセグメント                 | 6,540   | 4,318   | —       | —       | —       | —       | 65,400    |
| (旧)酒類・食品セグメント             | —       | 173,642 | 176,107 | 178,068 | 179,675 | 167,188 | —         |
| (旧)バイオセグメント               | —       | 20,574  | 16,490  | 13,671  | 13,560  | 14,338  | —         |
| (旧)その他のセグメント              | —       | 4,318   | 3,520   | 3,618   | 3,661   | 5,867   | —         |
| 売上原価                      | 117,864 | 122,325 | 120,132 | 119,114 | 119,023 | 114,617 | 1,178,640 |
| 売上総利益                     | 74,014  | 76,210  | 75,986  | 76,244  | 77,874  | 72,776  | 740,140   |
| 販売費及び一般管理費                | 65,507  | 68,550  | 70,062  | 68,841  | 68,514  | 64,169  | 655,070   |
| 営業利益                      | 8,506   | 7,660   | 5,924   | 7,402   | 9,360   | 8,606   | 85,060    |
| 税金等調整前当期純利益               | 8,321   | 7,660   | 7,876   | 6,813   | 10,453  | 6,232   | 83,210    |
| 当期純利益                     | 4,658   | 4,208   | 5,320   | 2,614   | 5,668   | 2,185   | 46,580    |
| 有形固定資産の減価償却費<br>及びその他の償却費 | 6,384   | 6,692   | 6,755   | 6,393   | 6,427   | 6,627   | 63,840    |
| 資本的支出                     | 3,852   | 3,617   | 5,633   | 6,511   | 5,243   | 7,269   | 38,520    |
| 研究開発費                     | 3,643   | 3,593   | 3,574   | 3,353   | 3,127   | 3,591   | 36,430    |
| <b>期末項目</b>               |         |         |         |         |         |         |           |
| 総資産                       | 207,843 | 213,393 | 212,466 | 190,773 | 189,416 | 175,830 | 2,078,430 |
| 有利子負債残高                   | 43,720  | 39,083  | 39,330  | 40,347  | 41,560  | 38,854  | 437,200   |
| 純資産                       | 113,273 | 115,570 | —       | —       | —       | —       | 1,132,730 |
| 自己資本                      | 99,969  | 102,507 | 101,839 | 89,478  | 88,006  | 79,888  | 999,690   |
| <b>1株当たり(単位：円)：</b>       |         |         |         |         |         |         |           |
| 当期純利益                     | 21.53   | 19.44   | 24.39   | 11.74   | 25.93   | 9.76    | 0.21      |
| 配当金                       | 8.50    | 7.50    | 9.00    | 7.50    | 7.50    | 7.50    | 0.08      |
| <b>指標(単位：%)：</b>          |         |         |         |         |         |         |           |
| 総資産当期純利益率                 | 2.2     | 2.0     | 2.6     | 1.4     | 3.1     | 1.2     |           |
| 自己資本当期純利益率                | 4.6     | 4.1     | 5.6     | 2.9     | 6.8     | 2.7     |           |
| 自己資本比率                    | 48.1    | 48.0    | 47.9    | 46.9    | 46.5    | 45.4    |           |

(注)1.百万円未満は切り捨てにより算出しております。

2.米ドルは2008年3月31日現在のレートの近似値100円/ドルで便宜換算しております。

3.事業区分の変更

2008年3月期より、従来「酒類・食品」セグメントに含めておりました「物流事業」をその金銭的重要性が増したため、独立セグメントといたしました。これは、2007年3月期に新たな連結範囲に加えた長崎運送株式会社が通年寄与することとなったためです。また、飲料事業撤退に伴い、「酒類・食品」セグメントは「酒類・調味料」セグメントと名称変更いたしました。

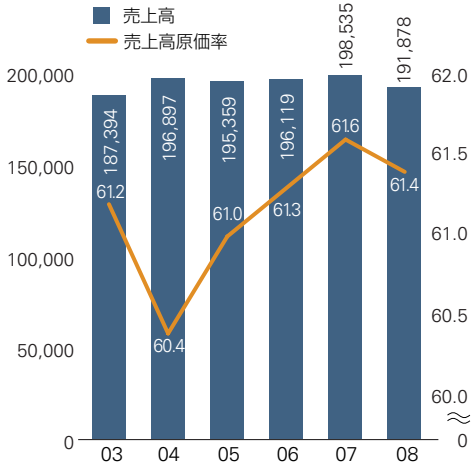
4.2007年3月期より「貸借対照表の純資産の部の表示に関する会計基準」および「貸借対照表の表示に関する会計基準の適用指針」を適用しております。

それにより、2007年3月期より、従来の資本の部合計に少数株主持分を加えた額を純資産として記載しております。

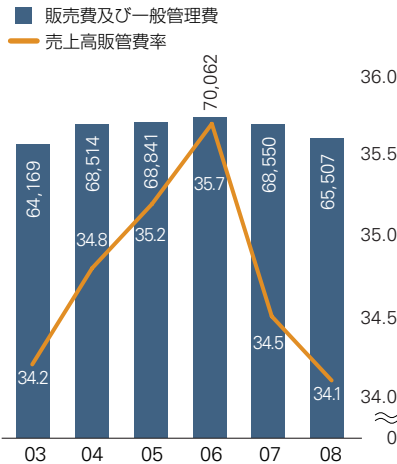
5.2007年3月期より自己資本は、純資産－少数株主持分－新株予約権で計算しております。2006年3月期以前は、従来の資本の部合計を記載しております。

# ファクトシート

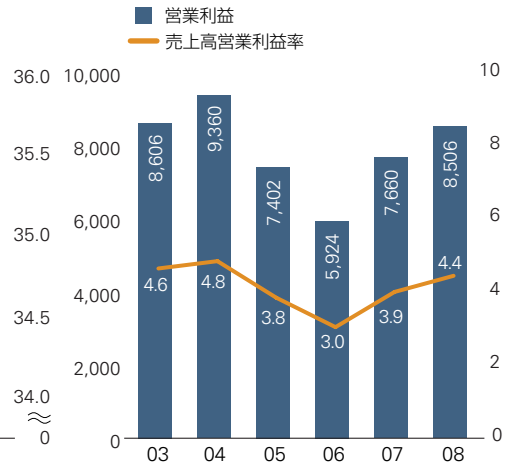
売上高・売上高原価率  
(百万円/%)



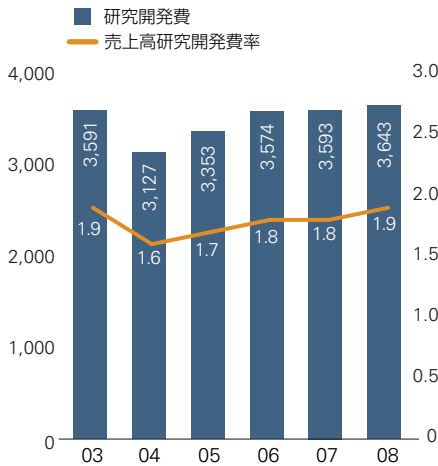
販売費及び一般管理費・売上高販管費率  
(百万円/%)



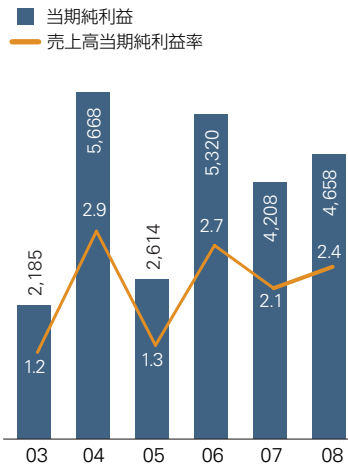
営業利益・売上高営業利益率  
(百万円/%)



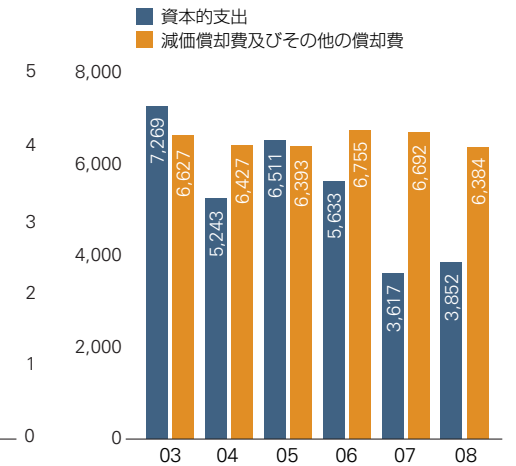
研究開発費・売上高研究開発費率  
(百万円/%)



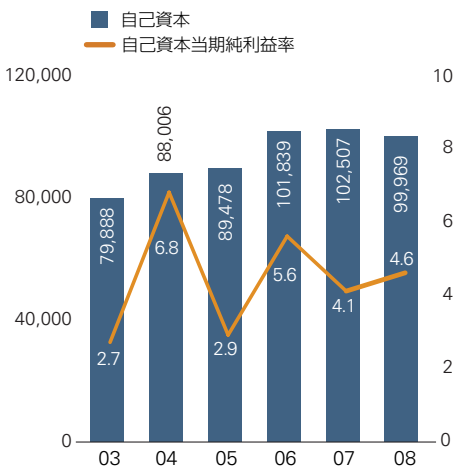
当期純利益・売上高当期純利益率  
(百万円/%)



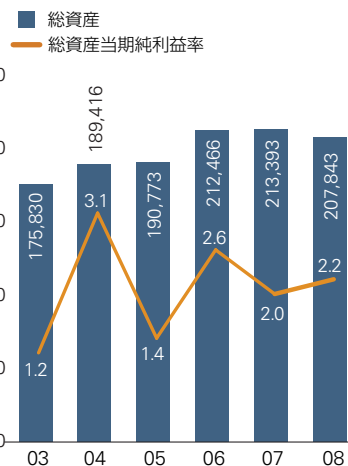
資本的支出・減価償却費及びその他の償却費  
(百万円)



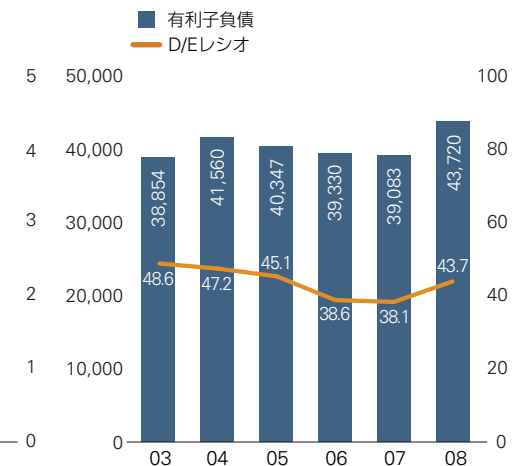
自己資本・自己資本当期純利益率  
(百万円/%)



総資産・総資産当期純利益率  
(百万円/%)



有利子負債・D/Eレシオ  
(百万円/%)



D/Eレシオ=有利子負債÷自己資本×100

## 主要子会社データ

| 会社名                                   | 所在地                                                                                                              | 資本金        | 議決権の<br>所有割合     | 主な事業内容                                                 |
|---------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------|------------------|--------------------------------------------------------|
| <b>宝酒造株式会社</b>                        | 〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20<br>TEL 075-241-5110 【お客様相談室】TEL 075-241-5111                                    | 1,000百万円   | 100.0%           | 酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売                                  |
| <b>宝酒造株式会社の連結子会社</b>                  |                                                                                                                  |            |                  |                                                        |
| タカラ物流システム株式会社                         | 〒610-0343 京都府京田辺市大住濱55-13<br>TEL 0774-68-1720                                                                    | 50百万円      | (100.0%)         | 運送業、倉庫業、自動車整備業、<br>損害保険代理業、旅行業等                        |
| ティービー株式会社                             | 〒610-0343 京都府京田辺市大住濱55-13<br>TEL 0774-65-3840                                                                    | 10百万円      | (100.0%)         | 運送業、倉庫業                                                |
| 長崎運送株式会社                              | 〒850-8668 長崎県長崎市尾上町1番16号<br>TEL 095-823-0161                                                                     | 250百万円     | (100.0%)         | 運送業、通関業、倉庫業等                                           |
| 小牧醸造株式会社                              | 〒895-1816 鹿児島県薩摩郡さつま町時吉12<br>TEL 0996-53-0001                                                                    | 16百万円      | (50.0%)          | 焼酎の製造・販売                                               |
| 株式会社ラック・コーポレーション                      | 〒107-0052 東京都港区赤坂5-2-39<br>TEL 03-3586-7501                                                                      | 80百万円      | (100.0%)         | ワイン輸入販売                                                |
| タカラ物産株式会社                             | 〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9<br>TEL 075-601-6267                                                                      | 10百万円      | (100.0%)         | 飼料販売                                                   |
| タカラ容器株式会社                             | 〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609<br>TEL 075-605-4540                                                                    | 30百万円      | 30.0%<br>(70.0%) | 容器卸売業                                                  |
| 株式会社トータルマネジメントビジネス                    | 〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609<br>TEL 075-623-2660                                                                    | 20百万円      | (100.0%)         | 広告代理業、マーケティングに関する調査、<br>販促企画、人材派遣事業、飲食店経営<br>持株会社      |
| USA Takara Holding Company (米国)       | 708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A.<br>TEL 510-540-8250                                                  | 4,094千米ドル  | (100.0%)         | 持株会社                                                   |
| Takara Sake USA Inc. (米国)             | 708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A.<br>TEL 510-540-8250                                                  | 3,000千米ドル  | (90.0%)          | 酒類製造・販売                                                |
| AADC Holding Company, Inc. (米国)       | 229 W. Main St. Frankfort, KY 40602, U.S.A.<br>TEL 502-223-9874                                                  | 30米ドル      | (100.0%)         | 持株会社                                                   |
| Age International, Inc. (米国)          | 229 W. Main St. Frankfort, KY 40602, U.S.A.<br>TEL 502-223-9874                                                  | 250千米ドル    | (100.0%)         | バーボンウイスキーの販売                                           |
| The Tomatin Distillery Co., Ltd. (英国) | Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K.<br>TEL 1808-511-234                                            | 3,297千ポンド  | (80.6%)          | スコッチウイスキーの製造・販売                                        |
| J&W Hardie Ltd. (英国)                  | Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K.<br>TEL 1808-511-234                                            | 250千ポンド    | (80.6%)          | スコッチウイスキーの製造・販売                                        |
| 宝酒造食品有限公司 (中国)                        | No.31 Nanyuan West St. Fengtai District,<br>Beijing, People's Republic of China<br>TEL 010-6791-1758             | 130,000千元  | (62.0%)          | 酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売、<br>宝酒造グループ製品の輸入販売               |
| 広州市利宝餐飲管理有限公司 (中国)                    | 18/F, Yue Hai Building No.472, Huan Shi Dong Road,<br>Guangzhou, People's Republic of China<br>TEL 020-8761-1100 | 4,800千元    | (51.0%)          | 広州市における日本料理レストランの<br>店舗運営会社                            |
| 上海宝酒造貿易有限公司 (中国)                      | 19J, LiDuXinGui. No.831 Xinzha Road<br>Shanghai, People's Republic of China<br>TEL 21-6218-1383                  | 4,896千元    | (51.0%)          | 宝酒造グループ製品の輸入販売、<br>中国優良製品の輸出                           |
| Singapore Takara Pte. Ltd. (シンガポール)   | 16, Raffles Quay, #15-09 Hong Leong Building, Singapore<br>TEL 421-9258                                          | 1,000千米ドル  | (100.0%)         | 酒類販売および投資活動                                            |
| <b>タカラバイオ株式会社</b>                     | 〒520-2193 滋賀県大津市瀬田三丁目4番1号<br>TEL 077-543-7200                                                                    | 9,022百万円   | 71.0%            | 医薬品、試薬、理化学機器、医療用具の製造・<br>販売、遺伝子解析、医療に関する検査受託           |
| <b>タカラバイオ株式会社の連結子会社</b>               |                                                                                                                  |            |                  |                                                        |
| 株式会社タカラバイオキャンサーイムノセラビー                | 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷1-1-16                                                                                       | 50百万円      | (100.0%)         | 活性化リンパ球療法等のがん免疫療法に関する<br>研究開発、技術支援、細胞加工に関する支援業務        |
| 瑞穂農林株式会社                              | 〒622-0313 京都府船井郡京丹波町保井谷三ツ枝38番地                                                                                   | 10百万円      | (49.0%)          | キノコ類の生産、販売、技術指導                                        |
| 有限会社タカラバイオファームセンター                    | 〒899-7306 鹿児島県曽於郡大崎町永吉4217                                                                                       | 3百万円       | (48.3%)          | 農産物・林産物の生産、加工並びに販売                                     |
| 株式会社さきのこセンター金武                        | 〒904-1201 沖縄県国頭郡金武町字金武9006番地                                                                                     | 5百万円       | (49.0%)          | キノコ類の生産、加工、販売、生産技術指導、<br>種菌生産・販売、肥料や飼料の製造・販売等          |
| 宝生物工程(大連)有限公司(中国)                     | No.19 Dongbei 2nd Street, Development Zone,<br>Dalian, 116600 China                                              | 2,350百万円   | (100.0%)         | 研究試薬の製造・販売および関係技術サービス                                  |
| Takara Bio Europe S.A.S. (仏国)         | 2, Avenue du President Kennedy,<br>78100 Saint-Germain-en-Laye, France                                           | 600千ユーロ    | (100.0%)         | 研究試薬の販売                                                |
| Takara Korea Biomedical Inc. (韓国)     | Lotte New T Castle 601, 429-1,<br>Gasan-dong Gumchun-gu, Seoul, Korea                                            | 3,860百万ウォン | (90.3%)          | 研究試薬・理化学機器・バイオ医薬品の<br>販売、研究受託、遺伝子検査                    |
| 宝日医生物技術(北京)有限公司(中国)                   | Life Science Park, 22 KeXueYuan Road<br>Changping District, Beijing 102206 China                                 | 54,661千元   | (100.0%)         | バイオ医薬の研究開発、バイオ研究用試薬、<br>理化学機器製造・販売、バイオ研究受託サービス<br>持株会社 |
| Takara Bio USA Holdings Inc. (米国)     | 1290 Terra Bella Avenue, Mountain View,<br>CA 94043, U.S.A.                                                      | 70,000千米ドル | (100.0%)         | 持株会社                                                   |
| Clontech Laboratories, Inc. (米国)      | 1290 Terra Bella Avenue, Mountain View,<br>CA 94043, U.S.A.                                                      | 83千米ドル     | (100.0%)         | 研究用試薬の開発・製造・販売、<br>研究受託サービス等                           |
| <b>宝ホールディングス株式会社の連結子会社</b>            |                                                                                                                  |            |                  |                                                        |
| 宝ヘルスケア株式会社                            | 〒612-8061 京都府京都市伏見区竹中町609<br>TEL 075-623-2317                                                                    | 90百万円      | 100.0%           | 健康食品の製品開発・販売                                           |
| 大平印刷株式会社                              | 〒600-8881 京都府京都市下京区西七条掛越町55<br>TEL 075-313-7141                                                                  | 90百万円      | 99.0%<br>(1.0%)  | 印刷業                                                    |
| 宝ネットワークシステム株式会社                       | 〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20<br>TEL 075-241-5139                                                             | 30百万円      | 100.0%           | 情報システム開発・運用・管理                                         |
| 川東商事株式会社                              | 〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9<br>TEL 075-601-5211                                                                      | 30百万円      | 100.0%           | 酒類販売、不動産賃貸                                             |

(注)議決権の所有割合の括弧書きは間接所有割合

## 会社概要

2008年3月31日現在

### 宝ホールディングス株式会社

|            |                         |
|------------|-------------------------|
| 商号         | 宝ホールディングス株式会社           |
| 事業内容       | 持株会社                    |
| 本店所在地      | 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地   |
| 電話         | 075-241-5130            |
| 設立         | 1925年9月6日               |
| 資本金        | 13,226百万円               |
| 代表者        | 代表取締役社長 大宮 久            |
| ホームページアドレス | http://www.takara.co.jp |

### 株主メモ

|           |                                                                               |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 発行株式      |                                                                               |
| 発行可能株式総数  | 870,000,000株                                                                  |
| 発行済株式総数   | 217,699,743株                                                                  |
| 株主数       | 34,188名                                                                       |
| 上場取引所     | 東証1部、大証1部                                                                     |
| 証券コード     | 2531                                                                          |
| 証券代行      | 東京都中央区八重洲一丁目2番1号<br>みずほ信託銀行株式会社                                               |
| 証券代行事務連絡先 | 〒135-8722<br>東京都江東区佐賀一丁目17番7号<br>みずほ信託銀行株式会社 証券代行部<br>電話0120-288-324（フリーダイヤル） |
| 株主総会      | 定時株主総会は、毎年6月に京都で開催されています。その他、必要のある場合には少なくとも2週間の事前通告をもって、臨時株主総会が開かれる場合があります。   |

### 大株主(上位10名)

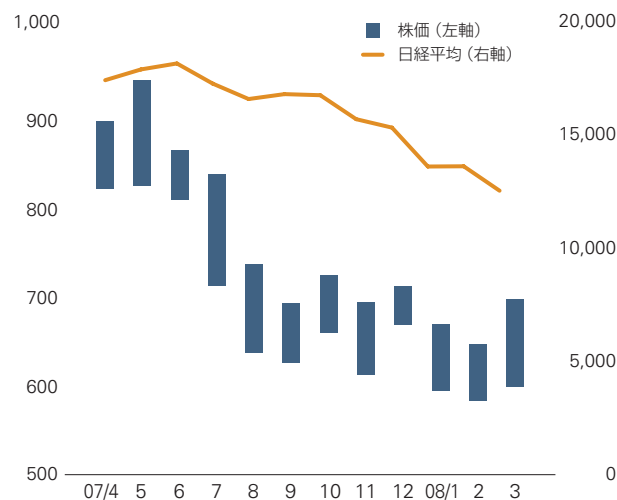
| 氏名又は名称                                                 | 所有株式数<br>(千株) | 所有株式数の<br>割合(%) |
|--------------------------------------------------------|---------------|-----------------|
| 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)                                | 10,375        | 4.77            |
| 株式会社みずほコーポレート銀行                                        | 9,738         | 4.47            |
| 農林中央金庫                                                 | 9,500         | 4.36            |
| 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)                              | 8,410         | 3.86            |
| 明治安田生命保険相互会社                                           | 6,318         | 2.90            |
| 株式会社京都銀行                                               | 5,000         | 2.30            |
| ドイツ証券株式会社                                              | 3,748         | 1.72            |
| ビー・エヌ・ピー・パリア・セキュリティーズ(ジャパン)<br>リミテッド(ビー・エヌ・ピー・パリア証券会社) | 3,554         | 1.63            |
| 国分株式会社                                                 | 3,134         | 1.44            |
| 三菱商事株式会社                                               | 3,000         | 1.38            |

(注)所有株式数の千株未満は切り捨てております。

### 宝酒造株式会社

|                    |                              |
|--------------------|------------------------------|
| 商号                 | 宝酒造株式会社                      |
| 本社所在地              | 京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地        |
| 電話                 | 075-241-5110                 |
| 設立                 | 2002年4月1日                    |
| 資本金                | 1,000百万円                     |
| 発行済株式数             | 20,000株                      |
| 大株主および<br>所有株式数の割合 | 宝ホールディングス株式会社 100%           |
| 代表者                | 代表取締役社長 大宮 久                 |
| ホームページアドレス         | http://www.takarashuzo.co.jp |

### 株価の推移(円)



### タカラバイオ株式会社

|                    |                             |
|--------------------|-----------------------------|
| 商号                 | タカラバイオ株式会社                  |
| 本店所在地              | 大津市瀬田三丁目4番1号                |
| 電話                 | 077-543-7200                |
| 設立                 | 2002年4月1日                   |
| 資本金                | 9,022百万円                    |
| 発行済株式数             | 281,829株                    |
| 大株主および<br>所有株式数の割合 | 宝ホールディングス株式会社 71.0%         |
| 代表者                | 代表取締役社長 加藤 郁之進              |
| ホームページアドレス         | http://www.takara-bio.co.jp |

# 宝ホールディングス株式会社

京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地

Phone:(075)241-5130

[www.takara.co.jp](http://www.takara.co.jp)



この印刷物は環境に考慮し、大豆インキ・水なしオフセット印刷で制作しており、用紙費用の一部は「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」に寄付されております。  
また、NPO法人カラーユニバーサルデザイン機構により色覚の個人差を問わず、多くの方に見やすく配慮されたデザイン(カラーユニバーサルデザイン)として認定されました。